

土蔵とボク



t-iro

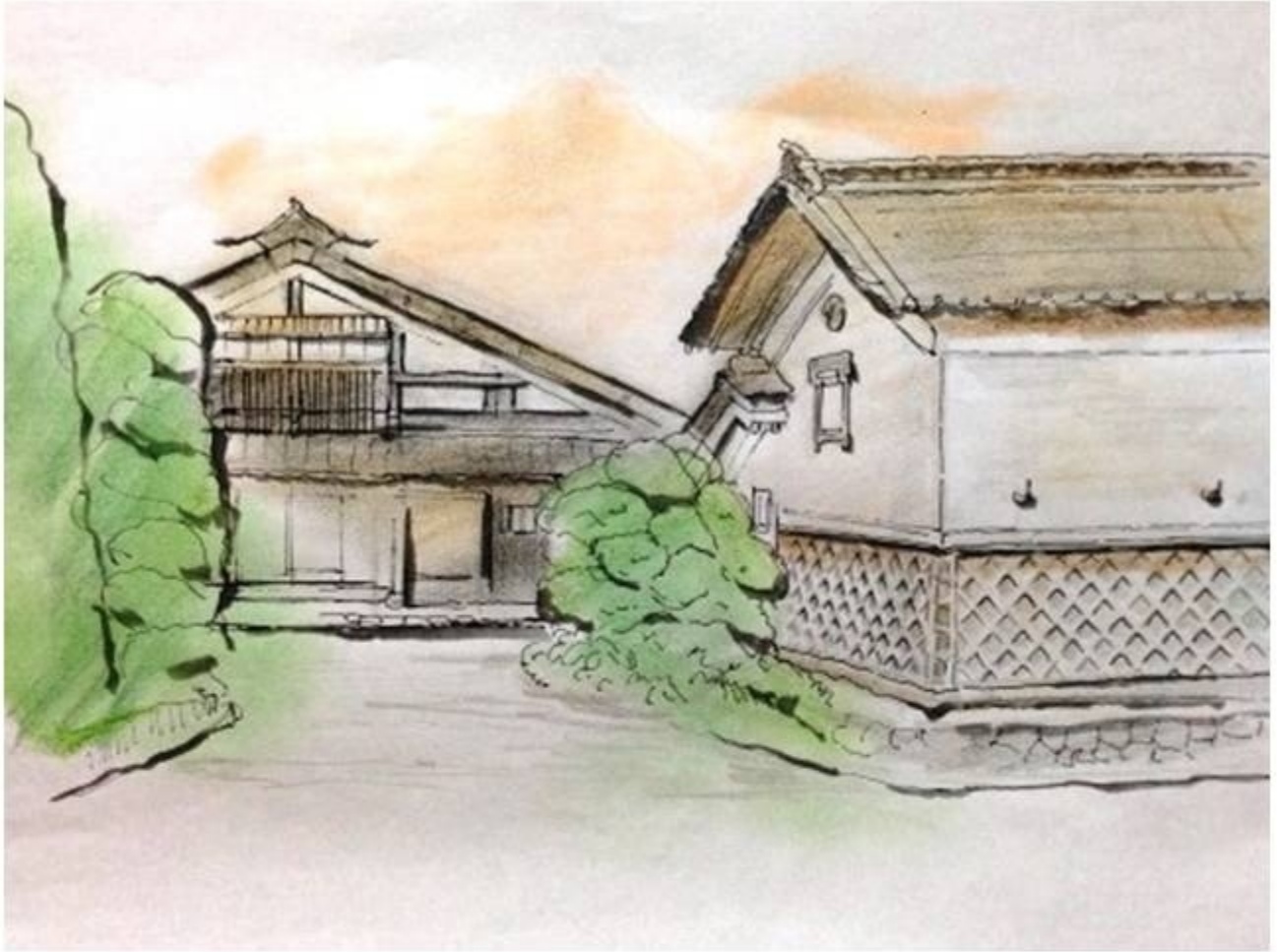


昨日、ボクはさびしい風景に出会った。

ひとりぼっちの土蔵。

キミは泣いているのかい。

最近、笑ったことはあるの？



窪田空穂記念館 生家(松本市)

土蔵は、家と仲良しだったはずなのに。

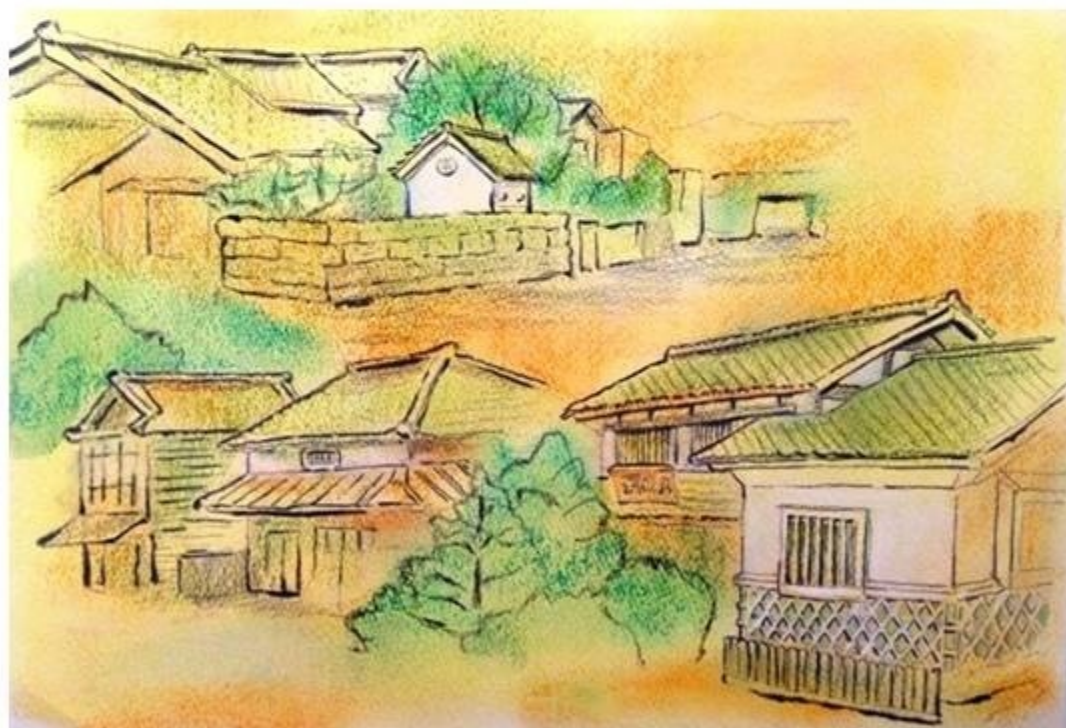
土蔵は、みんなの憧れだったのに。

『蔵』は富の象徴であり、『蔵が建つ』と言うことは、大金持ち、立身出世を意味してきたそうです。

土蔵って何だろう



土蔵はボクの家近所でも見かける。



塩尻市大門・旧中山道沿いの風景

饅 絵 (こてえ)



土蔵の壁に 絵や文字がおもしろいよね。
ワッペン、エンブレムみたい。

左官職人が饅で描いたもの。
屋号や火除け、縁起文字、
地名などで装飾されているそ
うです。

饅絵名人の入江長八が有名。
茅野市に、饅絵の博物館「天
香館」があります。
サフラン酒造（新潟県）の饅
絵は極彩色で華やかです。



漆喰壁(しっくいかべ)

土蔵の壁は、白いペンキが塗ってあるの？



白壁は漆喰壁と言います。左官職人が鏝で仕上げるそうです。土蔵だけでなく、お城や寺、民家などでも見られます。

木舞(こまい)かき～荒打ちの土塗り～藁縄を巻き上げるたるまき・縦縄横縄入れ～中塗り～漆喰塗りの順で作られるそうです。

戦時中、空襲の標的になるからと黒く塗ったり鉄山の土で黄土色にしたそうです。

なまこ壁

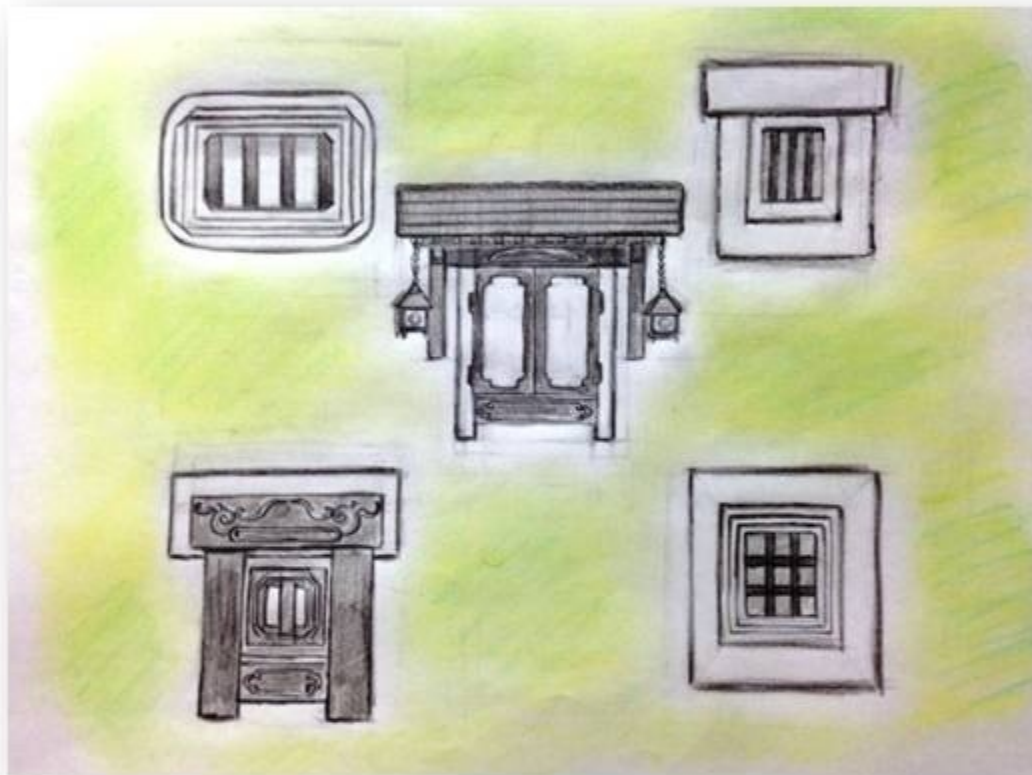
さわってみても良い?どんなかな。つるつる…ひんやり



黒い部分は平瓦、盛り上ったところは瓦と瓦の目地で漆喰でできています。壁を風雨風雪から守っているそうです。

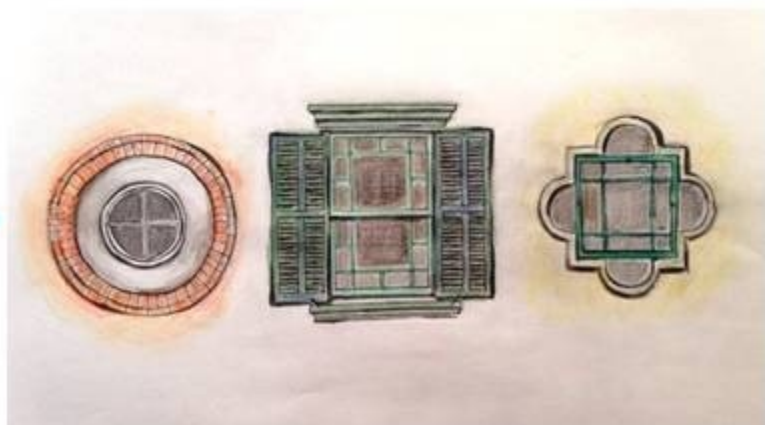
目地の漆喰がなまこを連想させるので、なまこ壁と呼ばれるそうです

掛け子塗りの窓 虫籠窓(むしこまど)...



不思議だね、ボクの家之窗と違うよ。
見たことない外国の家の窓みたい。

掛け子塗りの窓は、
観音開きの土扉があり、
気密性と防火性を高めるため、
扉が合わさる部分は段型になっている
そうです。



錠前金具(じょうまえかなぐ)



錠のまわりに、おもしろい細工がしてあるよ。
勲章、王様のベルトのバックル？

錠穴を守る飾り金具。
巾着の形や、鶴亀等の
縁起物の打ち出しや
線彫りがされている
そうです。





土蔵の中に入ってみよう

貯蔵・防火

暗くてちょっとびっくりしたよ。



土蔵の役割はものを貯蔵し、火災や盗難から守ることなので、火除けの鏝絵や漆喰の厚い壁など防火の工夫がされています。暗いのは、防火のために窓や戸口の開口部を小さくしているからだそうです。

米や糶、家具や古本、古文書などの重要な物品がしまわれていたそうです。

土蔵の暗闇の中で蝋燭を灯して小説を書く～江戸川乱歩は有名です。

醸造

エアコンが無いのに過ごしやすい感じがする。



蔵シツク館の杉玉(松本市)

土蔵の中は、夏涼しく冬温かいそうです。

恒温恒湿の環境が醸造に適しているので、酒蔵、味噌蔵、醤油蔵などに利用されているそうです。

酒蔵には杉玉が軒先に吊るされています。



古い土蔵は壊されるの？

再生



日本ラジオ博物館(松本市)

壊されてしまう土蔵もありますが、土蔵の魅力が見直され、別荘、店舗、住宅、学校、博物館・美術館などに再生されています。

また、蔵を生かした「蔵のまち」が全国にあります。長野県では、松本市中町、須坂市、千曲市稲荷山などが有名です。

「石の美術館」（栃木県）は、大正時代の石蔵を活かしたものでアートを感じました。

今日、ボクは古い土蔵が動いているのを見た。
持ち上げられて、コロコロ～曳家（ひきや）。

新しい場所に移動して生まれ変わるらしいよ。

いったいどんな風になるのだろうね。



参考資料

- 「よみがえる蔵 全国再生事例44選」日本民家再生協会
- 「蔵」東京海上火災保険
- 「民家建築の再興」降幡廣信
- 「古民家再生ものがたり」降幡廣信
- 「建築の絵本 日本の町並み探求」吉田桂二
- 「くうねるところにすむところ 素材の実験」隈研吾
- 「蔵の町をゆく」小学館
- 「江戸川乱歩」太陽編集部編
- 「洋館さんぽ ひがしにほんへん・にしにほんへん」
インク・インコーポレーション
- 「世界の美術14 ルーヴルの名宝と近代美術への招待」
主婦の友社
- 「新村の土蔵」松本市新村公民館
- 「諏訪市内 土蔵のこて絵」金子信也
- 「ハケ岳山麓のくらとこて絵」くらフォーラムinハケ岳
- web「住まい考房 すまいこらむ」
- web「社団法人 日本曳家協会」
- web「左官屋ブログ」

順不同



土蔵とボク

<http://p.booklog.jp/book/83293>

著者 : t-iro

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/t-iro/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/83293>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/83293>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ